

## 第 66 号 「小笠原漂流記」(令和 4 年 3 月 1 日発行)

四方を海に囲まれたわが国では、昔から人々が船を使って移動したり物資を輸送したりする海運が盛んでした。しかし、陸運と違って船運は常に危険がともなうものであり、とりわけ江戸時代の板製の船で動力も帆に風を受けて進む帆船ではなおさらでした。

このため日本沿岸を航行する帆船が遭難して、暴風や複雑な海流に乗ってロシア極東や沖縄、台湾、香港へ、果てはフィリピンにまで漂流することもあったようです。

今回、小笠原への漂流事件について、特集号として発刊することといたしました。

小笠原諸島への漂流の記録は、辻友衛氏の「小笠原諸島歴史日記」によれば、16件が掲載されています。このうち小笠原諸島の存在が初めて日本に知られるきっかけとなった、蜜柑船の漂流や小笠原父島に欧米系島民が居住していることが明らかにされた「中吉丸」の漂流が特に有名です。

今回の特集号では数少ない小笠原諸島への漂流に関する記録等を収集し、まとめてみました。

